



Level 4・5

2011年度 第1回

問題用紙

検定開始の合図があるまで、問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

●^{じゅけん}受検上の注意●

1. ^{けんてい}検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしていたら、手をあげて^{かんとくしゃ}監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と^{いっしょ}一緒に^{かいしゅう}回収します。

問題 I

次の文章は、宮沢賢治の「よだかの星」です。よく読んで、後の問に答えなさい。

第一問

- ① よだかは、実にみにくい鳥です。
- ② 顔は、ところどころ、味噌をつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。
- ③ 足は、まるでよぼよぼで、一間とも歩けません。

問一

①と③の関係を説明したものとしてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア ①↓②↓③と、時間的順番に説明している。
- イ まず①で全体を説明し、②と③をくらべている。
- ウ ①と②をくらべ、③でそれをまとめている。
- エ ①で全体を説明し、②と③でくわしく説明している。

問二

傍線部「歩けません」の主語を答えなさい。

第二問

ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになってしまおうという工合ぐあいでした。

(1)、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずっと上だと思っていました
(2)、夕方など、よだかにあうと、さもさもいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそっぽへ向けるのでした。

問一 (1) に入ることばを、次の中から一つ選びなさい。

そして しかし つまり たとえば さて

問二 (2) にはひらがな二字が入ります。それを選んだ理由としてもっともふさわしいものを、次のア～

エの中から一つ選びなさい。

ア (2) はその前の文を受けて、後の文につなげる役割やくわいだから。

イ (2) の前と後の文とは、対等の関係にあるから。

ウ (2) の前の文が、後の文の理由になっているから。

エ (2) の後の文が、前の文をひっくり返しているから。

第三問

ある夕方、とうとう、鷹がよだかのうちへやって参りました。

「おい。居るかい。まだお前は名前をかえないのか。ずいぶんお前も恥知らずだな。お前とおれでは、よっぽど人格がちがうんだよ。たとえばおれは、青いそらをどこまででも飛んで行く。おまえは、曇ってうすぐらい日か、夜でなくちゃ、出て来ない。それから、おれのくちばしやつめを見ろ。そして、よくお前のとくらべて見るがいい。」

「鷹さん。それはあんまり無理です。私の名前は私が勝手につけたものではありません。神さまから下さったのです。」

「いいや。おれの名なら、神さまから貰ったのだと云ってもよかるうが、（　　）。さあ返せ。」

「鷹さん。それは無理です。」

問

（　　）に入る鷹のセリフを、次のア～エの中から選びなさい。

- ア お前のは、云わば、おれと夜と、両方から借りてあるんだ
- イ お前のは、お前が自分でかってにつけた名前じゃないか
- ウ お前のは、お前の実際の姿にふさわしくないじゃないか
- エ お前のは、俺とあまりに似すぎた名前じゃないか

第四問

「無理じゃない。おれがいい名を教えてやろう。市蔵いちぞうというんだ。市蔵いちぞうとな。いい名だろう。()、名前を変えるには、改名の披露ひろうというものをしないといけない。いいか。それはな、首へ市蔵と書いたふだをぶらさげて、私は以来市蔵と申しますと、口上を云って、みんなの所をおじぎしてまわるのだ。」

「そんなことはとても出来ません。」

「いいや。出来る。そうしろ。もしあさつての朝までに、お前がそうしなかつたら、もうすぐ、つかみ殺すぞ。つかみ殺してしまふから、そう思え。おれはあさつての朝早く、鳥のうちを一軒いっけんずつまわって、お前が来たかどうかを聞いてあるく。一軒いっけんでも来なかつたという家があったら、もう貴様きさまもその時がおしまいだぞ。」

「だってそれはあんまり無理じゃありませんか。そんなことをする位なら、私はもう死んだ方がましです。今すぐ殺して下さい。」

「まあ、よく、あとで考えてごらん。市蔵いちぞうなんてそんなにわるい名じゃないよ。」鷹たかは大きなはねを一杯いっぱいにひろげて、自分の巢ねの方へ飛んで帰って行きました。

問一 傍線部の「それ」が何を指すのか、五字以内でぬき出しなさい。

問二 ()に入る言葉を、次の中から選びなさい。

しかし でも そこで たとえば つまり

第五問

あたりは、もううすくらくなくなってしまいました。夜だかは巢から飛び出しました。雲が意地悪く光って、低くたれています。夜だかはまるで雲とすれすれになって、音なく空を飛びまわりました。

それからにわかによだかは口を大きくひらいて、はねをまっすぐに張って、まるで矢のようにそらをよこぎりしました。小さな羽虫が幾匹も幾匹もその咽喉にはいりました。

からだがつちにつくかつかないうちに、よだかはひらりとまたそらへはねあがりました。もう雲は鼠色になり、向うの山には山焼けの火がまっ赤です。

夜だかが思い切つて飛ぶときは、そらがまるで二つに切れたように思われます。

()。よだかはすぐそれを呑みこみましたが、その時何だかせながぞつとしたように思いました。

問 次の語句をならべかえて、()に入る一文を完成させ、上から三番目にくる語句を答えなさい。

のどに 甲虫が、 夜だかの はいって、 もがきました 一匹の ひどく

第六問

雲はもうまっくろく、東の方だけ山やけの火が赤くうつって、恐ろしいようです。よだかはむねがつかえたように思いながら、又そらへのぼりました。

また一疋の甲虫が、夜だかののどに、はいりました。そしてまるでよだかの咽喉をひつかいてばたばたしました。よだかはそれを無理にのみこんでしまいました。その時、急に胸がどきっとして、夜だかは大声をあげて泣き出しました。泣きながらぐるぐるぐるぐる空をめぐったのです。

(1) (2) それがこんなにつらいのだ。ああ、つらい、つらい。(3) いやその前にもう鷹が僕を殺すだろう。いや、その前に、僕は遠くの遠くの空の向うに行ってしまうおう。

問 (1) (2) (3) に入る文を、次のアウの中からそれぞれ選びなさい。

ア ああ、かぶとむしや、たくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。

イ 僕はもう虫をたべないで餓えて死のう。

ウ そしてそのただ一つの僕がこんどは鷹に殺される。

第七問

つめたいものがにわかには顔に落ちました。よだかは眼をひらきました。一本の若いすすきの葉から露がしたたつたのでした。もうすっかり夜になって、空は青ぐろく、一面の星がまたたいていました。よだかはそらへ飛びあがりました。今夜も山やけの火はまつかです。よだかはその火のかすかな照りと、つめたいほしあかりの中をとびめぐりました。それからもう一ぺん飛びめぐりました。そして思い切って西のそらのあの美しいオリオンの星の方に、まっすぐに飛びながら叫びました。

「お星さん。西の青じろいお星さん。(1)私をあなたのところへ連れてって下さい。灼けて死んでもかまいません。」

オリオンは勇ましい歌をつづけながらよだかなどは(2)相手にしませんでした。よだかは泣きそうになって、よろよると落ちて、それから(3)ふみとまって、もう一ぺんとびめぐりました。それから、南の大犬座の方へまっすぐに飛びながら叫びました。

「お星さん。南の青いお星さん。どうか私をあなたの所へつれてって下さい。やけて死んでもかまいません。」
大犬は青や紫や黄やうつくしくせわしくまたたきながら云いました。

「馬鹿を云うな。おまえなんか(4)どんなものだい。たかが鳥じゃないか。おまえのはねでここまで来るには、億年兆年億兆年だ。」そしてまた別の方を向きました。

問 (1) (2) (3) (4) に入ることはを、次の中からそれぞれ選びなさい。

一体 てんで どうか きつと やつと

第八問

よだかはがっかりして、よろよろ落ちて、それから又二へん飛びめぐりました。それから又思い切つて北の大熊星の方へまっすぐに飛びながら叫びました。

「北の青いお星さま、あなたの方へどうか私を連れてって下さい。」
大熊星はしずかに云いました。

「余計なことを考えるものではない。少し頭をひやして来なさい。そう云うときは、氷山の浮いている海の中へ飛び込むか、近くに海がなかったら、（1）をうかべたコップの水の中へ飛び込むのが一等だ。」

よだかはがっかりして、よろよろ落ちて、それから又、四へんそらをめぐりました。そしてもう一度、東から今のぼつた天の川の向う岸の鷲の星に叫びました。

「東の白いお星さま、どうか私をあなたの方へ連れてって下さい。やけて死んでもかまいません。」
鷲は大風に云いました。

「いいや、とてもとても、話にも何にもならん。星になるには、それ相應の身分でなくちやいかん。又よほど金もいるのだ。」

よだかはもうすっかり力を落してしまつて、はねを閉じて、地に落ちて行きました。そしてもう一尺で地面にその弱い足がつくというとき、よだかは俄かに（2）のようにそらへとびあがりました。そのなかほどへ来て、よだかはまるで鷲が熊を襲うときするように、ぶるっとからだをゆすつて毛をさかだてました。

それからキシキシキシキシと高く高く叫びました。その声はまるで鷹でした。野原や林にねむっていたほかのとりは、みんな目をさまして、ぶるぶるふるえながら、いぶかしそうにほしぞらを見あげました。

問一（1）に入ることを、漢字一字で答えなさい。

問二 (2) に入るものを、次の中から選びなさい。

甲虫 かぶとむし

とんぼ

霧 きり

のろし

第九問

夜だかは、どこまでも、どこまでも、まっすぐに空へのぼって行きました。もう山焼けの火はたばこの吸殻のくらいにしか見えません。よだかはのぼってのぼって行きました。

寒さにいきはむねに白く凍りました。空気がうすくなった為に、はねをそれはそれはせわしくうごかさなければなりませんでした。

それだのに、ほしの大きさは、さつきと少しも変わりません。つくいきはふいごのようです。寒さや霜がまるで剣のようによだかを刺しました。よだかははねがすっかりしびれてしまいました。そしてなみだぐんだ目をあげてもう一ぺんそらを見ました。そうです。これがよだかの最後でした。もうよだかは落ちているのか、のぼっているのか、さかさになっっているのか、上を向いているのかも、わかりませんでした。ただこころもちはやすらかに、その血のついた大きなくちばしは、横にまがっては居ましたが、たしかに少しわらって居りました。

それからしばらくたってよだかははっきりまなこをひらきました。そして自分のからだがいま燐の火のような青い美しい光になって、しずかに燃えているのを見ました。

すぐとなりは、カシオピア座でした。天の川の青じろいひかりが、すぐうしろになっていました。

そしてよだかの星は燃えつづけました。いつまでもいつまでも燃えつづけました。今でもまだ燃えています。

問 結局、夜だかは最後に何になったのか。漢字一字で答えなさい。

問題Ⅱ

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

声って、ふだんはあまり意識いしよしないけど、実はとっても大切なものだと思います。なぜなら、声って自分の思い全部を込めることができるからです。言葉には意味があります。だから、わたしは相手の言葉を意味として頭の中で理解りかいし、受け取ります。ところが、声自体には意味がありません。それゆえ、わたしの存在全体を伝えることができないのだと思います。

わたしは毎日朝起きたらお母さんに小さな声で「おはよう」ってあいさつをします。お母さんも「おはよう」って返してくれますが、なんだか義務ぎむ的な気がしていました。あるとき、わたしは思いきって、お母さんへの感謝かんしゃの気持ちを声にこめ、大きな声で「おはよう」って言ったのです。その時、お母さんはとってもすてきな笑顔で「おはよう」と返してくれました。そこで、わたしは言葉で感謝の気持ちを伝えるよりも、声にわたしの思いを全部込めた方が、よりお母さんに伝わると思っただけです。声って、本当に不思議です。わたしの全部を声によってじかに相手に伝えることができるからです。

問一 第一段落には、論理的ろんりにまちがっているところが一つあります。それをひらがな二字でぬき出し、正しくなるようにひらがな一字で直しなさい。

問二 「わたし」の話の筋道すじみちの立て方として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア わたしの体験から始まって、それを一般化している。
- イ わたしの主張から始まって、それを具体的に説明するための体験話で終わっている。
- ウ わたしの体験から始まって、次に反対の例、最後にわたしの主張でまとめている。
- エ わたしの主張から始まって、次に体験話、最後にもう一度わたしの主張でまとめている。

問題Ⅲ

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

近ごろ私たちは芸術を鑑賞するとき、たとえば絵画なら美術館に行きます。美術館では額縁に飾った高価な絵を硝子越しに眺めます。ときには、大勢の人たちの肩越しに、つま先立ってみなければならぬこともあります。ところが、日本のもともとの芸術は、生活を美しく飾ることでした。例えば、平安時代、ふすまや屏風などに、数々の美しい絵を描きました。毎日使用する食器類や遊び道具にも美しい装飾を施しました。

問一 問題文を二つの段落に分け、後半の段落の始めの五字（句読点をふくむ）をぬき出しなさい。

問二 筆者がもつとも主張している箇所を、二十五字以内でぬき出しなさい。

問題IV

花子さんは小学校五年の女の子で、今日はそうじ当番です。ところが、同じそうじ当番の男の子がサボって帰ろうとしました。

「サボっちゃ、ダメよ」と花子さんが言うと、その男の子は「そうじは女の子の仕事」と言って、相手にしてくれません。

花子さんは、なんて反論していいか分からず黙り込んでしまいました。

問一 そうじをさぼろうとした男の子の言い分を、十五字以内で書きなさい。

問二 男の子の言い分に対して、四十字以内で反論しなさい。ただし、日本語として正しい文章で書くこと。

